

【戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE)】

平成26年度予算案: 25.5億円(電波利用料財源5.0億円含む)

	対象とする研究開発課題	研究開発経費※ (年度当たりの上限額)	研究開発期間	備考
ICTイノベーション 創出型研究開発	国として今後取り組むべき現時点の課題を分類及び整理した「研究開発戦略マップ」において、イノベーションを創出する独創性や新規性に富む研究開発課題。	フェーズⅠ: 500万円 フェーズⅡ: 3,000万円	フェーズⅠ: 1か年度 フェーズⅡ: 最長2か年度	若手研究者の要件の見直し
若手ICT研究者等 育成型研究開発	ICT分野の研究者として次世代を担う若手人材を育成することや中小企業の斬新な技術を発掘するために、若手研究者又は中小企業の研究者が提案する研究開発課題(ビッグデータの利活用のための研究開発課題を含む)。	フェーズⅠ: 300万円 フェーズⅡ: 1,000万円		
電波有効利用促進型 研究開発	(先進的電波有効利用型) 電波の有効利用に資する先進的かつ独創的な研究開発課題。	フェーズⅠ: 500万円 フェーズⅡ: 3,000万円	フェーズⅠ: 1か年度 フェーズⅡ: 最長2か年度	若手研究者の要件の見直し
	(若手ワイヤレス研究者等育成型) 若手研究者又は中小企業の研究者が提案する電波の有効利用に資する先進的かつ独創的な研究開発課題。	フェーズⅠ: 300万円 フェーズⅡ: 1,000万円		
地域ICT振興型 研究開発	地域に密着した大学や地域の中小・中堅企業等が実施する、地域固有の社会的・経済的課題の解決や地域社会・経済活動の活性化に寄与する研究開発課題(「地域イノベーション戦略」の全体構想の実現に資すると認められる課題を含む【対象の追加】)。	フェーズⅠ: 300万円 フェーズⅡ: 1,000万円		多段階選抜方式の適用 科学技術重要施策アクションプランへの対応
先進的通信アプリ ケーション開発推進型 研究開発	(タイプⅠ) 民間企業による新世代ネットワークの機能を使った大規模な検証を必要とする先進的な通信アプリケーションの開発課題。	4,000万円	1か年度	
	(タイプⅡ) 大学や中小企業等が提案する新世代ネットワークの機能を使った先進的な通信アプリケーションの開発課題。	フェーズⅠ: 1,000万円 フェーズⅡ: 4,000万円	フェーズⅠ: 1か年度 フェーズⅡ: 1か年度	

※別途、間接経費(直接経費の30%を上限)を配分。

採択評価の主なポイント

ICTイノベーション創出型研究開発	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信分野におけるイノベーションを創出する種となりうる研究開発か。
若手ICT研究者等育成型研究開発	<ul style="list-style-type: none"> 以下のいずれかの観点で評価できる研究開発か。 <ul style="list-style-type: none"> ○若手ICT研究者の育成 ○中小企業の斬新な技術の発掘 ビッグデータの利活用のための研究開発を通じて、ビッグデータ分析の専門家（データサイエンティスト）の育成への貢献が認められる課題に加点。
電波有効利用促進型研究開発	<ul style="list-style-type: none"> 新しい電波利用の実現に向けた研究開発か。 以下のいずれかの技術であって、おおむね5年以内に開発される技術として到達目標が明確に設定されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ○周波数を効率的に利用するための技術 ○周波数の共同利用を促進するための技術 ○高い周波数への移行を促進するための技術
地域ICT振興型研究開発	<ul style="list-style-type: none"> 以下のいずれかの観点で評価できる研究開発か。 <ul style="list-style-type: none"> ○当該地域固有の社会的・経済的課題に対し、情報通信技術の面から解決できる課題であるか。 ○研究成果を活用して地場産業の振興、新規事業の創出、地域住民の生活向上等、地域社会・経済活動の活性化に寄与できる課題であるか。 「地域イノベーション戦略推進地域」として選定された地域の構成機関からの提案であって、「地域イノベーション戦略」の全体構想の実現に資すると認められる課題に加点。
先進的通信アプリケーション開発 推進型研究開発	<ul style="list-style-type: none"> 開発目的が社会的課題の解決に資する、社会的ニーズを満たすなど妥当なものであるか。 開発する通信アプリケーションが先進的なものであるか。 柔軟なネットワークの設定・運用を可能とする機能をどの程度有効に活用するか。 開発手法（テストベッドにおける検証等を含む）が妥当であるか。